

北白川EFEOサロン 2018-2019
日本における宗教と民衆への教え（16～19世紀）



歌川 国芳 《高祖御一代略図》 [建治三年九月身延山七面神示現]
都立中央図書館特別文庫室所蔵

2019年 2月 8日（金） 18:00～

失われたキリシタン民衆の声を求めて

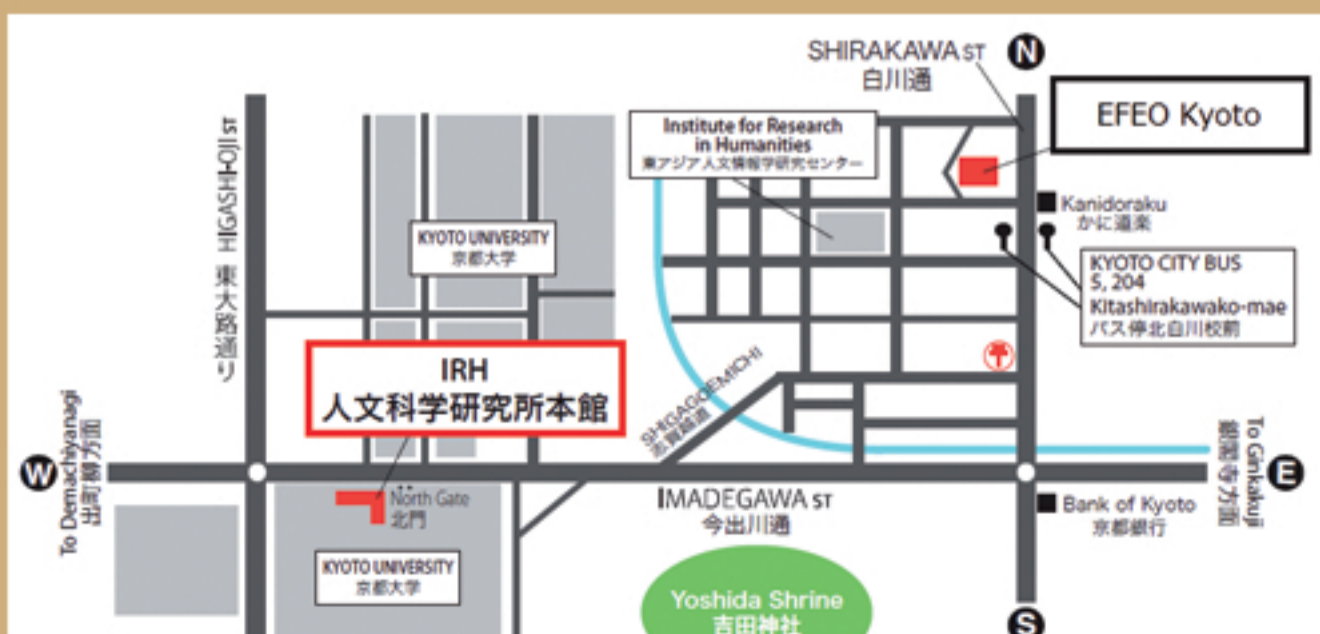
— 島原天草一揆後の排耶書を中心に —

講師：マルタン・ノゲラ・ラモス（フランス国立極東学院・准教授）

島原天草一揆（1637-1638年）に関する近年の研究では宗門の面が注目されつつある。終末観・メシアニズム・敬神観に支えられ、最後まで激闘したキリシタン民衆は治世者に強い印象を残したのは間違いのないであろう。その結果として、それ以前主として宣教師・上層部のキリシタンを対象としていた宗門改が、徐々に民衆の動向をも重要視するかたちで、飛躍的に整備されていった。

17世紀半ばの宗門改関係者は第二の「島原天草一揆」を防ぐため、外面的態度の取締りは不十分であり、内面的信仰も把握し、変質させるべきとの理解に至った。この点を明らかにすることは本発表の一つ目の目的である。二つ目は、当時のキリシタン信仰諸相を探ることである。そのため、従来の研究ではさほど重視されてこなかった多福寺（大分県・臨済宗妙心寺派）所蔵の排耶的史料群を取り上げる。

場所：京都大学人文科学研究所 本館1階セミナー室1



使用言語：日本語

研究者・学生対象

要事前申込

efeo.kyoto@gmail.com

または

075-701-0882 まで